

《開基記念作文決る》

最優秀賞に佐藤君

市では、開基百年を記念して、さる七月に作文の募集を行ないました。九月二日に審査会が行なわれ、最優秀賞には佐藤孝之さん、また小・中・一般の各部門ごとの優秀賞も次のように決まりました。

開基百年記念募集作文最優秀賞

「郷土留萌」

未来の留萌に期待をこめて

留萌市元町三(北光中学二年)



佐藤 孝之

ぼく達の住む留萌市は日本海に面した港町です。そして、その港「留萌港」は昔から市の中心として、町をささえてきました。

江戸時代から第二次大戦ごろまでは港というものはなかったけれど、留萌川の河口が絶好の舟泊地となつてニシン漁が栄え、昭和十一年に国際貿易港に指定されて開港してから近年まで、羽幌や昭和など、付近に石炭産地があり、そこから送られてくる石炭を全国各地に積み出しをして活躍しました。

炭鉱が閉山したあと、石油の中心地として巨大な石油貯蔵タンクが海岸に立ち並び、また、水産加工の町として、現在も港を中心とする産業が発展しつつあります。中心街をはさんで、港と反対側

▽最優秀賞「郷土留萌」

北光中学二年 佐藤 孝之

▽小学生の部「開基百年によせて」

留萌小学校五年 木原 早苗

「きたいするわがるもい」

緑丘小学校二年 遠藤奈津佳

▽中学生の部

「私の町留萌」

てきます。ことに、冬の猛吹雪と北風は留萌名物の一つにさえなっています。

それに、留萌港は地形の条件が悪く、危険なことで有名で、全国でも指折りの航海の難所としてこわがられています。今でも流されて座礁した船の残骸があり、塩見三泊海岸から見ることが出来ます。

市の中心から北側にはずれた所には留萌川が流れていて、港の外へ注いでいます。一級河川で、最近堤防の改修も行なわれていますが、どぶの水のように濁っています。春になると雪溶け水を集めた勢いで、ときどき子どもをさらってしまったりしますが、いつになったら美しい川に変わるのでしょうか。

さて、中心街にはいろいろな商店が立ち並んでにぎやかですが、大きな建物はほとんどなく、道路も一本横にそれると人通りは少なく、ひっそりとしています。

しかし、市には立派な文化センターやスポーツ・センター、見晴公園、市営球場などがあり、公共施設はなかなか整っていると思います。そして町のはずれでは、現在、丘をならして宅地の造成を行なっています。

土地や住宅を増やすにつれて人口も増加するといわれていますが、現在はずり減りつつあるようです。人口減少の原因として、観光地となるような、特にすぐれた自然美は持っていないし、大きな工場もなく、産業があまり発達していないからだと思います。

でも、けつして悪い所ではありません。千望台から見渡すと樹木の緑が町を飾り、青く澄んだ空と広々とした日本海に囲まれた留萌磯の香りが漂い、大都會の騒音と悪のはびこっていない平和なまち、我が郷土。

ぼくは、この町が大好きです。そして、これからどんどん発展していつてほしいと心から願わずにはいられません。

しかし、現在のままでは次第におとろえていく一方ではないかと

港南中学二年 北島 清人

「留萌の発展と期待」

北光中学一年 飛島 昌代

▽一般の部

「健康と緑の美しいまちに」

市内大町三丁目 五十嵐 博子

「我がふるさとの魅力」

市内沖見町五 工藤 静子

思うと、とても心配です。市の発展を考えると、もつと工業を盛んにしなければならぬと思います。港の多面的活用をはかるとともに、工業が盛んなれば商業やその他の産業もきつと発達します。ただ、その場合、注意したいことは公害の問題です。

今までは公害のない工業都市なんてありませんでした。でも、それは公害そのものをなくすることができないんじゃないかと、公害を防ぐ設備にお金がかかるため、多くの企業が良心的に努力しないために起る公害も少なくないのだそうです。

将来、留萌市が無公害都市を実現することができたら、どんなにすばらしいことでしょう。

もし、どこかの町の人に「留萌市はどんな所ですか」とたずねられたら、だれもが胸を張って答えることのできる、そんな町になつてほしいと思います。